

広報広聴常任委員会会議録

日 時 令和元年5月20日（月曜日）10時00分～10時58分

場 所 議員控室

出席者 阿部委員長、金木副委員長、小寺委員、舟見委員、工藤委員、森議長
ワザハバー 平山議員、船本議員、村田副議長

事務局 豊島事務局長、杉野係長

阿部委員長

それでは、時間となりましたので、広報広聴常任委員会を開催いたします。

本日のテーマは、議会広報・広聴の調査、研究及び実施に関することについてを議題といたします。資料の中にありますけれども、広報について、そして広聴について協議したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

- 1 議会広報・広聴の調査、研究及び実施に関することについて
- (1) 広報について

阿部委員長 10:00～10:05

では、私のほうから資料について説明したいと思います。まず、1つ目の広報についてですが、(1)の議会広報紙の編集及び発行といたしまして、議会広報紙は年4回発行しております。1月、4月、7月、10月、これは定例会後に発行するような形になっていきます。発行までのスケジュールについてですが、ここに例として載せています。平成30年12月定例会が12月13日から14日まで行われていまして、それから発行までのスケジュールを載せています。まず初めに、議会広報委員会、平成30年12月14日、これは定例会終わってすぐ開いています。内容としては、レイアウト等の打ち合わせであったり、各担当ページの決定。次に、編集作業を平成31年の1月8日、レイアウト、誤字脱字等のチェックを行っております。次に、各課でのチェックを平成31年1月10日、仮印刷したものを各課によるチェック、これは3日間でチェックしていただいております。最終入稿日が平成31年1月12日、印刷会社へチェック済みの原稿を届ける。そして、納品日が平成31年1月21日、印刷会社から納品。発行日が平成31年1月23日、町内配布が平成31年の1月24日に町内に配布しております。この中で、米印で書いていますけれども、一般質問についてはこれまで質問された方が編集しております。

続けていきます。(2)のインターネット中継（手法検討）として、昨年度町側のほうに予算要求しております。51万4,000円、これについては広報広聴常任委員会の調査事項

に入っておりますので、今後も引き続き調査をしていくつもりです。その下に予算申請時期までにある程度の方向性、次年度に予算要求するものなのか、また時間をかけてでもどういった形でインターネット中継が実現するのかなどというのをある程度方向性を出していかなければならないのかなというふうに思っています。インターネット中継について予算申請しましたけれども、その目的としては本町議会本会議での町理事者と議員との議論を時間に制限されることなく町民等が傍聴できる機会を提供し、より町民の関心及び羽幌町行政へ町民の参加する意識を助長することを目的に、会議を録画し、インターネット等を通じて放送するため、必要な機器の購入を予算要求として申請していました。町側からの回答としては、必要性は理解するものの、配信方法等を含めて再度検討願いたいとの答えが返ってきています。

次に、(3)のその他として、前期までに取り組んできた広報の部分を報告しますけれども、常任委員会、各特別委員会の議事録を平成30年4月より町のホームページで閲覧可能となっています。平成30年12月より音声配信、これは一般質問だけですが、町のホームページから聞くことができます。最後に、議会通信の掲示ということで、一般質問の内容など、また質問者の紹介などをしております。

まず、ここまでが広報についてとなります。今回新しく工藤委員、舟見委員入られていますので、もしわからないことがあれば、挙手にて質問、また意見なり言っていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。工藤委員、舟見委員、何かここままで、例えば広報の編集であったり、そういったことでわからないことがあればぜひ聞いていただきたいなと思います。

— 主な協議内容等（質疑） — 10:05～10:16

工藤委員 今のところではないです。この質疑はずっと見ていたので、きちっとやっているなという感じを受けていました。

阿部委員長 編集については。

工藤委員 編集については、現在の流れで僕は十分だと思うのですが。

舟見委員 僕はとりたててないです。

阿部委員長 編集については、この常任委員会の委員さんでやることになりますので、よろしく願いいたします。インターネット中継に関してもしあれば。

予算申請時期までに方向性を出すというのを書いていますが、これは例えばもう一回どういった手法がいいのか、そういった部分も含めて、いきなり次年度出すのではなくて、今期じっくり時間をかけてやるということも一つですし、何だかんだ早くやりたいのだというふうになれば、当然この常任委員会を開催する機会がどんどんふえるのかなとも思いますけれども、どうでしょうか。

工藤委員 この時代の状況でいくと、やっぱりネット見ている人が相当数あると思うので、傍聴に直接行くのはどうも二の足踏むという人方がそれで見れば、十分羽幌の今の議会にしる、町側がどういうことをやっているのかというのが一目で見れるのだから、それは現在の時代の背景からいくとやっぱりやる方向で進めたほうが良いと思うのですけれども。

金木副委員長 今年度で予算化されなかった理由にほかの配信方法も含めて再検討をというような言い方だったのだけれども、ほかの配信がそんなに何通りもあるのかどうか、俺もちょっとわからないのですけれども、その辺町側、町長というか、どの辺の意図があってそういうこと言っているのかなというのをわかる範囲で。うちはたしかユーチューブに上げるような格好だったと思うのですけれども、それ以外の上げ方、配信の仕方というのは私も詳しくはわからないので、ユーチューブなら何か問題があるのかどうかというようなこともあるのですが、ありそうな気がしますけれども、その辺もうちょっとどこかで吟味、検討する必要があるのかもしれないという気はしました。

阿部委員長 そういった場合というのは、例えば町側から説明を受けるような形にしたほうがいいのかどうかというのはあるけれども。

金木副委員長 こうだろう、こうだろうとうちらで言っているだけではね。

森 議長 たまたまこの時期議員でなかったという方はお目通し願いたいと思います。新人議員2人もそうですけれども、あと3月に小寺委員のほうでこれについて質問していますよね。まだ私は議事録見ていないのですけれども、そのときにもそういうような返事だったのです。それで、町側と

しては具体的に、一般質問の答弁ですから、それに対して返答していると思うのですけれども、先ほど一応ほかのこともというのですけれども、具体的なやりとりはなかったです。小寺さんから自分でやったし、小寺委員に聞いてもらったほうがいいなと思うのです。

小寺委員　ちょっと今議事録確認しようかなと思ったのですけれども、まだ載っていないので、あれなののですけれども、基本的にはその辺、当初予算請求をした回答のネットの配信の仕方ということは問題ではないような答弁だったのです。なので、その辺を確認はしたのですけれども、根本的にはそこではないような答弁だったように認識しています。なので、そこはより具体的に、本当に予算上でだめだったのか、当初予算請求した回答のネット環境によるものが原因でだめだったのか、そこはしっかりもう一度確認しないといけないのではないかなというふうには思っています。自分も一般質問しながらも、前言ったというか、予算査定の結果のものと違っていたので、そこが原因ではないのかどうかというのには疑問を持ちつつ一般質問終わったのですけれども、そんなところです。

森 議 長　金木さんがそうおっしゃったというのは、予算査定の結果落ちた理由の中に配信方法等も問題があるのでないかという指摘というのを多分事務局長から聞いたのかなと思うのですけれども、一般質問ではそれは余り問題でないような、何が問題ということは明確に言わなかった。お金がないからつけないとかという、配信の方法が問題でないならば、住民にそういう形で知らせること自体も何かと議論になっています。変な言い方だけれども。

小寺委員　議事録がないので、正確にはちょっと言えないのですけれども、基本町民に対して広報するということは町側、町長も認めて、いいというふうには、今年最初の言葉でもありましたし、それはおおむね合致はしているのですけれども、その方法とやり方と、あとお金とというところが原因なのではないかなというふうに思います。ですので、50万円が高い、安いというところなのか、そこはやっぱりもう一度、それが委員会ができたので、委員会として聞くほうがいいのか、それとも各議員が一般質問の中でもっとそこを深めていくほうがいいのかというのにはちょっとわ

からないのですけれども、そこは明確ではなかったと思います。

阿部委員長 そういった感じだと、改めて町側のほうにも確認する必要があるのかなとも思いますし、多分次年度の予算に反映させるのであれば、聞きながら、そういった方法を検討をしながらということで、時間もかなりかかると思うので、急いで次年度に予算要求という形ではなくて、ある程度確認しながら、やりとりしながらインターネット中継に関して実現できる方法というのを探っていくほうがいいのかとも思いますけれども、その辺もしほかの意見というか、あれば。何だかんだ来年やろうよというのがあればあれですが、どうでしょう。

工藤委員 基本的にやるということで、僕一般質問でなくて、例えばこの委員会で町長をはじめ担当者の方に来てもらって、懇談しないとなかなか進まないのではないかな。一般質問でやっても、それはできないと言われたら、もうそれで終わりになる。この会ではできないの。

森 議長 今たまたま懇談という、まだなれていないからあれだけれども、そういう意味でなくて、多分議会としては委員会の調査、休会中の所管事項調査にきちっと上げて、町側の見解を聞いて、委員会として正式にやりとりするというような内容を含んでいるのではないかなと。懇談というと何か個人的なとか、非公式な感じになるから、そういう意味。

阿部委員長 そういうような形で町側のほうもちゃんと委員会として呼んで、どういった手法がいいのかというのを協議していきたいと。これに関しては、ではある程度時間をかけてでもしっかりと手法を検討していくという形でよろしいですか。(はい。の声) それでは、(3)のその他にこれまでの取り組みが書いていますけれども、もし広報について何かほかに議会についての広報、こういうのもしあれば、ここで意見を言っていたきたいなとも思いますけれども、いきなり何か出してくれというのも難しいですので、これについても委員会、回を重ねていく中で、もしこういったふうに町民の方に議会の活動なり、こういった動きをしていったらいいのではないかなというのがあれば、委員会のほうでもぜひ発言してください。では、まず1つ目の広報についてこれでいいですか。(はい。の

声)

(2) 広聴について

阿部委員長 10:16～10:18

では、2つ目の広聴についてに移りたいと思います。まず、(1)の住民との意見交換会で、過去の意見交換会として、1回目が子育て世代、これはゼロ歳から6歳児の保護者を対象として、開催日が平成29年の12月19日、参加者は18名、2回目が青年層、18歳から45歳、平成30年3月16日開催の参加者が17名、3回目が町外からの転入者の方たちとの意見交換会を平成30年7月24日、参加者が19名、4回目の意見交換会がボランティア団体、これは福祉系の3団体と意見交換会をしまして、平成31年1月28日、参加者は17名となっております。下に行きまして、意見交換会で出された意見は一般質問であったり委員会の調査事項等で行っています。意見交換会開催前に事前アンケートも実施して、参加されていない方も含め、広く意見を収集しています。3つ目が意見交換会で出された意見を政策に反映させるためにも、議員間討議であったり政策提言の仕組みづくりが今後は必要になるのではないかなと考えております。

(2)の次回の意見交換会開催について、今日全て決めるのは難しいのですが、一応今日のメインとして考えていただきたいなと思っています。そこで、団体であったり、年次、性別等あるかと思いますが、もしこういったところとやってみたらどうだろうかという意見があれば、出していただきたいなと思っています。時期的には休会中にやりたいなと、6月の定例会終わってから9月定例会までの間に1回やれたらなと思っています。

— 主な協議内容等 (質疑) — 10:18～10:58

小寺委員 　まず、4年あるうちの年間何回やっていくのかというのを決めるのか、それとも最低でも年に3回やりましょうとかというのを決めるのか、要望があったものに対してやっていくのか、どういうスタンスでやっていくのかというのを明確にしたほうがやりやすいのではないかなというふうには思います。ただ、もしそれが無いのであれば、急ぐことはないですし、どうしても今年度中に2回はしたいですとか、定例会ごとには毎回やりたいですとか、そっちを決めれば必然とはまっていったりもしますし、あとは時期的なものもあって、12月定例会後だと、やったことはあるのですけれども、年末年始でちょっと難しいですとか。あともう一つ

は、議会広報にそれを反映させていくのか、それとも全然別なものとして扱っていくのか。スケジュールです。最後のほうはどうしても議会広報に載らないので、別で印刷してつくったこともあったと思うのですけれども、そういうものもありますし、あとは相手方のスケジュールもあるので、その辺も含めて全体でどれぐらいをやりたいというか、目標があるのか、もし委員長のほうであれば。

阿部委員長 前期、議会・行政改革特別委員会の中の第2分科会の中で意見交換会を担当してまして、定例会後に毎回やるとなるとかなりスケジュール的には厳しいなどは個人的には考えていました。あとは、先ほど来言いましたように、広報紙に載せる関係もあって、その辺うまいタイミングでというの必要になりますし、ただ定例会後にずっとやるのが厳しいから、個人的には年2回、3回ぐらいが、2回ぐらいが一番いいのかなと。その間にしっかりと意見交換会の対象者を決めるなり、事前アンケートをとる関係も今後引き続きとっていったほうがいいのかなと思いついて、そういったものもあるので、かなりスケジュール的には、1回の意見交換会を開催するのに2カ月ぐらいは時間を必要としているのです。そういったことを考えれば、年2回やればいいのかというような思いでございました。

小寺委員 あと、前期とちょっと違っているのが役割分担、ほかの常任委員会との役割分担なのですけれども、前期の場合は例えば担当する常任委員会が、総務産業常任委員会は個別に商工会ですとか漁協ですとか農協と懇談会をしているのです。それを含めて、うちの委員会で広聴という機会を受け取るのか、それとも常任委員会は常任委員会でやっていただいて、それ以外のものというか、内容で自分でやっていくのか、その辺のすみ分けをしないと、総務産業で考えていたのだけれども、こっちでも考えているということも出てくるのではないかなと思っているのですけれども、その辺広報広聴常任委員会で担当する広聴部門の位置づけというのが今わかるか、話し合うのか、ちょっとわからないのですけれども、もしほかの委員の方で。

森議長 逆に、さっきと同じで広報広聴常任委員会をつくるときの議論に全く参

加していないので、こちらのほうからつくるということは広聴の目的をつくると、そういう話はもうある程度した上でつくったのかなと思っていたから、そのときのものをむしろ聞きたいなと思っていたのですけれども、その上で議会一般としての部分の話をしないと新人わからないし、僕も全然つくるとき参加していないので。

阿部委員長　そこまでについては多分議論はされてはいなかった。ただ、広報広聴常任委員会の中に意見交換会という部分含まれているだけであって、常任委員会ごとの懇談会、各産業団体であったり、そういったのまで含めていましたっけ、含めていなかったのではなか。

森議長　基本的には、従前も意見交換会の担当ですよということだけが具体的にあったと。当然新しくでき上がったわけですから、これからいろんな工夫してそれ以外も、広聴活動ってそれだけではないような気がしますので、そういうことはまた別にやるとして、つくった段階では意見交換会のみということをつくったということであれば、従前の産業団体の部分というのもある意味ではかぶるし、それではない調査事項に近いような形で意見交換会、意見交換会という名前そもそもつけていないみたいなことがあるので、その辺は若干調整が必要なのかなと思いますけれども、ここだけ決めれることでもないので、改めて常任委員会委員長等も含めて整理する必要があるって、今日進める上でそれがなければ次に行けないということではないので、次回以降の課題としてやるしかないのではないかなというふうに思います。

阿部委員長　その辺も各常任委員会のほうと相談しながら、どういった形で、広報広聴常任委員会としてやるのかというのも今後やっていきたいと思います。年何回やるのかという話もありましたので、その辺について委員の皆さんからもしあれば、金木さん、どうでしょうか。

金木副委員長　何回が正解かというのはないのだろうけれども、確かに大体多くても4回やったという、去年か、4回やりましたけれども、4回にこだわる必要もないと思うのです。その時々日程とか、議会の視察日程とかが入っていれば結構忙しい期間もあるだろうし、真冬の開催も1回、1月28

日に開催した経過もあるけれども、なるべくなら真冬の開催は避けたほうがいいのではないかなという気もするし、そういったことで3回前後ぐらいがベストかなという気がします。

工藤委員 2回ないし3回でいいと思いますけれども。

小寺委員 工藤さんと舟見さんは様子もわからないので、回数を言えないのではないかなと思うのです。ただ、自分の認識としては、前の第2分科会というのが担当したのですけれども、準備、アンケートも含めて、事前にオファーをかけて、アンケートをとって、集計をして、当日運営を行って、その後アンケートをまとめて、広報に原稿を上げてという作業はかなり一生懸命、大変だったのではないかなという認識だったのです。なので、余り無理しないでやったらいいのではないかな。ただ、それをどこまで、うちの委員会で持つわけですから、かなりみんなで頑張らないと大変、委員長だけでやるわけではないのでという意味で、たくさん回数やれば本当はいいと思うのですけれども、少しずつ準備しつつ、なれてくればたくさんできるとは思うのですけれども、余り無理する回数を設定しないほうがいいのではないかなというふうには思っています。

舟見委員 今小寺委員がおっしゃったとおりだと思います。

阿部委員長 年何回というのを決めずにやっていくような形でよろしいですか。何回と決めないといっても、次の意見交換会も当然考えていかなければならないと思いますので、その辺も委員会をびっちり開くということも大変になってきますので、もし何か、今まで4回やりましたので、こういったところとやってみてはどうかというのも挙げてもらえれば、それも対象者を調べる上で、確認する上でもいいので、もしこういったところやってみたらどうだろうかというのがあれば。

工藤委員 前回やった青年層というのは、どういう職業の方が主だったのか。

阿部委員長 ばらばらなのですけれども、農協青年部、漁協青年部、そして商工会青年部の3団体の青年の方たちに声をかけたのと、あとは一般の方も何名

か参加していました。周知方法というのは、各産業団体の青年部の部長さん宛てに参加をお願いをしたのと、回覧板のほうでもたしか回していたはずですが、これについては。

工藤委員 例えば18歳から45歳、もしくはもうちょっと年齢上の55歳ぐらいまで、そういう方々の意見というものを聞くのは非常に重要だと思うので、完全に現在現役で働いている人方と一度懇談して、例えば町の現在の仕組みとか、僕らはこういうふうにして思っているというのを吸い上げるのがこれからにとっていいのではないかなと思いますけれども。

阿部委員長 ある程度年齢を上げてというか、現役で働いている方たち。

工藤委員 現役で働いている人、そういう人方の意見聞くのが一番いいのだと思うのですけれども。僕は詳しくわからないのですけれども、今特に情報というか、知識がないのが林業のことがわからないので、よく年配者に聞くと、山にきちっと木を植えてきちっと管理しなるときれいな水が流れてこないから、漁業にも影響するのだとか、あるいは山から流れた水が田んぼに入って稲がよく育つのだとか、山に木をきちっと植えることが大事だとかって聞いて、僕はわからないから、ああ、そうなのだみたいにして返答しながら会話するのですけれども、そういう林業関係の人方の話も、僕ら今さら勉強というのもあれだけれども、聞いてみたいなど。

小寺委員 うまく言えないのですけれども、意見交換会だから、例えば林業だったら総務産業の担当でもあるのです。農林水産が担当なので、そこを農林水産からの話ではなくて林業者に限定してしまうのか、その辺が難しく、林業者との意見交換会にしたいのか。

工藤委員 そういうしたいということではなくて。

小寺委員 だから、その辺、ちょっとわからないのですけれども、どこの場所でやるのが一番いいのかなと自分は思ったのです。

工藤委員 単純に、例えば農業の人でも漁業の人でも林業の人でも来てもらって、いろん

な話を聞くということではないですか。

小寺委員　くくりはしないということなのですかね。個別に今言っていたので、今のをちょっと広げると1次産業の方との懇談会というふうにするのか、意見交換会というのをもしテーマにするとすれば、そういうふうになるのか、それとも林業、農業となるのかなど。

工藤委員　ちょっとわからなかったものですから、出したのは僕の思いだけであって、林業の人だけ来てもらってやるということではないです。

阿部委員長　現役で働いている方たちということなので、2回目にやったのは本当に青年層という若い世代だけでやったから、そうではなくて50代、60代までいくのか、そういった方たちも含めてということで多分工藤委員おっしゃっていると思います。もちろんそういった広くやるのも一つかなとも思います。先ほど小寺委員のほうから、林業だけとなれば、それはそれで委員会のほうになるのかどうか、そちらのほうも常任委員会の委員長さんを含めて協議していきたいなと思います。僕の案も1つ言っていていいでしょうか。僕としては、中心市街地の特別委員会の委員長にもなりましたし、商店街の店主さんたちからの意見というのも1つ聞いてみたいなど。ここ最近商店街振興会のほうからは余り要望等出ていないので、その辺りたいなという。そこでいろんな要望を聞いて、それで中心市街地を云々という思いもあるし、これはあくまでも自分の案なので、その辺いやいや、こっちのほうがいいのではないかと。

工藤委員　今僕最初に言ったのは、農業、漁業、林業の方でくくりで1回やって、そして商業関係の人とはまた2回目にやるとか、それが逆でもいいですけども、そんなふうにすれば大体民間で働く人の意見吸い上げられるのではないのかな。

阿部委員長　農業、漁業、林業、1次産業の方たちを集めて。ほか、もしこういうのというのがあれば。

森 議 長 今2つのアイデア出てきたし、いいですよ、順番は別にして両方とも。両方やると余りにも幅広過ぎるということもあるかもしれないし。労働現役世代という言葉があるのかどうかわからないですけども、今70まで働いているので、そういう世代層と持つというのもいいなというふうに思うので、あとは順番等を詰めていけばいいのではないですか。

阿部委員長 せっかく工藤委員のほうからも意見いただきましたので、まず1次産業に従事されている方たち、青年層とは違って社長さんとかをやっている方たちと話すのも一つかなと思いますので、対象者は農業、漁業、林業の方たちでよろしいでしょうか。(はい。の声) 時期的な部分がありまして、農業、漁業、林業もそうなのですけども、時期的に。暫時休憩します。

(休憩 10:38~10:49)

阿部委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。
先ほど意見交換会の対象者であったのですけれども、前期第2分科会のほうで、いろいろとこういった団体とやってみたらどうだ、こういうのを対象者にしたらどうだということで、第2分科会でできてすぐのときに案として出したのが子育て世代との意見交換会、老人クラブとの意見交換会、各町内会との意見交換会、小中高校生の保護者との意見交換会、ボランティアサークル、団体等との意見交換会、離島地区での意見交換会を案として出しました。その中で、今出たいろんな団体の中でさらにピックアップするでもないのですけれども、世代的な部分であったり、そういった感じで意見交換会をやっています。前期、森議長のほうからも移住者、転入された方とやっていないという、そういった方たちの声を聞くのも一つではないかということで、そういった方たちと意見交換会をしています。いきなりそうやって言ったはいいいけれども、ではどことというふうにもなりますので、特に先ほど出ました1次産業の方たちについてはやっぱり時期的な部分もありますので、そういったところも考慮しながら、次回どういった対象者がいいのかというのを考えていかなければならないのかなと思います。ずっとこのままどこにするとかやっても今期の第1回目ができませんので、もし本当によければ、先

ほど自分が言った商店街振興会とか商店主の方たちとの意見交換会、商店街ですので、夏場だから残業しているということもないでしょうし、そういった形でもしよければ、時期的な部分も休会中になりますので、7月の末から8月頭あたりにやればいいのかなどとも思いますけれども、もしほか委員さんのほうから何か意見があれば、お願いいたします。

工藤委員 今の商業関係の人との1回目というのは、いいと思います。日程も7月が一番いいのでないかな。お祭り終わった後ぐらいに。

阿部委員長 そういったスケジュールも今後調整しながら、何月の何日までというのは決めないで、まずは7月から。

小寺委員 6月中とか、定例会終わった後に。7月入ると研修とか入る。研修6月か。

阿部委員長 6月。

小寺委員 あとは、議会広報との関係もあるので、そこも考えると早いほうが編集とかは楽ちん。

阿部委員長 編集に関してはそんなに、出された意見をそのまま載せるだけだから。

小寺委員 あと、載せるか載せないかというのもあります。

阿部委員長 意見交換会を開催したことについては、議会だよりのほうには引き続き載せていきたいなと思っていますし、出された意見について今後どうするかというのもありますので、そちらに関しても常任委員会のほうにこういった意見出されましたというのを持って行って、委員会の調査事項に含めてもらってもいいですし、議会だよりのほうは引き続き載せていく形です。

森 議長 あと議長日程のことで、6月は、前回も言いましたけれども、24の週は4日間フルに羽幌にいませんので、帰ってくるのが27日の夜遅くという

ことになりますから、6月中はスケジュール的にかなり難しいというふうに考えます。

阿部委員長 7月末から8月、お盆前には、それかお盆明けぐらい。事前アンケートとか周知する絡みもありますので、あとは対象者の方と調整しながらということになりますので、時期的な部分は7月から8月ということによろしいですか。(はい。の声) 場所とか時間についても対象者の方と相談しながら決めていきたいなと思います。商店街の方たちなので、仕事が終わってからということになって夜になるのかなとは思いますが。こちらについては、常任委員会のほうでこういったアンケートの内容にするのかであったり、進め方というほうも今後決めていきたいなと思いますので、よろしく願いいたします。では、意見交換会についてはよろしいですか。

小寺委員 あと、今回1回目は大体決まったと思うのですがけれども、ラインナップをいっぱいふやして、そこから選んだほうが良いと思うので、うちの委員会だけではなくて、今回委員会に入っていない方にも口頭でなくてペーパーでいっぱい出してくださいぐらいのを集めて、たくさんある中で今一番いいものを選ぶような形で、うちの委員会以外の方にももっとしてたくさん材料を集めたほうが良いのではないかなというふうには思うのですが、いかがでしょう。

阿部委員長 そちらに関しても、広報広聴常任委員会だけで対象者決めるということにもならないと思いますので、この常任委員会に入っていない議員の皆さんの意見を聞きながら意見交換会の対象者出していければなと思ってます。
暫時休憩します。

(休憩 10:56~10:58)

阿部委員長 休憩前に引き続き会議を開きます。
ほかどうですか。(なし。の声) なければ、広聴についてはこれで終わりにしたいなと思います。その他、広報、広聴について何かあれば、意見お願いいたします。ないですか。(なし。の声) では、ないようですので、

以上で広報広聴常任委員会を終了いたします。お疲れさまでした。